

## 平成29年度第6回社会教育委員会議 会議録

日 時 平成30年3月22日(木)

15:00～16:40

場 所 第2庁舎 2階北会議室

出席委員 山口議長、小林副議長、池永委員、榎本委員、大澤委員、藤島委員（6名）

欠席委員 辻委員、中川委員、奈良委員、渡辺委員（4名）

事務局 教育委員会教育部：瀬能部長、山口次長

勇払公民館：佐藤副館長 美術博物館：武田主査

科学センター：松本副館長、矢萩主査

生涯学習課：鍛冶課長、斉藤主査、田中主査、久保主任主事

---

1 開 会 鍛冶課長

2 挨 拶

山口社会教育委員会議議長

3 議 事

- (1) 平成30年度生涯学習課・各施設の事業概要について  
資料に基づき、事務局・施設から説明

《質疑の主な内容》

議 長：ただいまの説明について、質問・ご意見ございますか。

委 員：出前講座は前にも土日は市の職員が休みという話があったかと思いますが、今回も平日のみですね。

事務局：出前講座は市のそれぞれの課が行っているもので、土日開催の場合はご相談ということになるかと思えます。

議 長：担当部署とご相談して決めるという方向でよろしいでしょうか。

事務局：はい。確かに、職員は土日が休みということもございますが、ご相談いただければと思います。

委員：2つ質問があるのですが、1点目は「赤ちゃん絵本のとびら」ですが、人から聞いた話だと、ブックスタートのことかと思うのですが、ブックスタートと名乗らない理由があるのでしょうか。その場で渡されるだけだと聞いたのですが、もらいやすいという利点はあると思うのですが、親しむというためには、図書館の人に読んでもらおうとかもって赤ちゃんのために深いものがあった方がいいのかなと思いました。

2点目ですが、生涯学習推進基本計画でもお話しいたしましたが、0歳児からプラチナ世代へと思っているのですけれども、事業概要を見たときに、すべて何歳の対象と当てはめていって、抜けた世代がないかどうかというのを見てもらいたい。例えば、科学センターでも、お母さんが安心して来られる、赤ちゃん限定などの赤ちゃんが泣いても良いプラネタリウムとかがあってもいいかなと思います。

議長：1つ目関係で図書関係の要望がありましたが、よろしいですか。

事務局：名称としましては、苫小牧版のブックスタートで、赤ちゃんが初めて出会うという意味合いで、「赤ちゃん絵本のとびら」という名称にしております。本を渡されるだけではないかということだったのですけれども、3冊から2冊を選んで持ち帰ることになっておりまして、それぞれの本の内容をご紹介して選んでいただくということで、保護者の方にも絵本への関心を広げていただけるように読書推進も含めてお渡しすることにしております。また、絵本のとびらパックには、赤ちゃんへの読み聞かせの方法ですとか、赤ちゃんへのお勧め本ですとかのパンフレットを添えてお渡ししております。読み聞かせについては、中央図書館で絵本のとびらのフォローアップ事業として、赤ちゃんと絵本の広場というイベントを行っておりまして、こちらにご参加していただくことで、実際に0歳児に適した本の読み聞かせですとか、手遊びなどを交えた事業を行っております。

委員：生涯学習課でももらえるのですよね。

事務局：はい。生涯学習課でも絵本のご紹介をしながらお渡ししております。

議長：2つ目の間断のない生涯学習を進めるために、年齢を考えて進めてほしいということですが。

事務局：社会教育委員会議で計画のご議論いただいたときにもご意見がありました。その内容を盛り込むことで計画を作りまして、この計画が30年度から動き出すということがありますので、生涯学習を扱っている施設が色々ありますけれども、抜けている世代がないか、計画に沿った形で進めていきたいと考え

ております。

議長：個々を実践する上で隙間がないように行政で進めていただきたいと思います。他にございますか。

委員：各課の事業としてボランティアということで載っているのですが、第五次計画にも載っていた指導者の育成が、見ると全く出ていない。大変な部分だと思えるのですが、国や、新学習指導要領でも掲げられております。これからのかもしれませんけれども、指導者を育てるということをここに載せてもらいたかった。もし入れてないのでしたら、そういう方向で行ってもらいたいなという気がします。

議長：ボランティアの指導者の育成について、予算も伴うことですが、いかがですか。

事務局：ボランティアの育成をしていくということで計画にございまして、本来30年度予算とリンクすれば良いところですが、今年度は計画策定に注力いたしまして、計画ができてから、市民や各団体へ周知をし、5年間の計画期間内に進めるというプロセスで考えております。生涯学習課では、障がい者のためのパソコンボランティア体験講習会ということで、ボランティアの育成を行っておりますが、これから、この計画を進める中で、その他の部署とも協議し進めてまいりたいと考えております。

委員：それから、科学センターの科学体験事業の推進に学芸員研修とあるのですが、他の課や館の事業を見ると別項目になっている。内部の予算で、外部の予算ではないのでこの記載ではないのかなと思いました。それはさておき、博物館は調査研究費がついているのですが、科学センターはついていないのでしょうか。展示するにしても、色々調べなければならないですから、調査研究という費用が必要だと思うので、今後予算を見てもらってもよいのではないかと思います。

事務局：内部と外部の表記につきましては、主にインターシップに来ていただいた場合のもので、学生で学芸員を目指す方の講習ということになっております。それから、研究費はないです。今あるのは、館長や担当者の会議ですとか、主に運営になるのかもしれませんが、他の館と情報交換をしております。

議長：参考までに、行政の方もその点を留意していただきたいと思います。よろしいですか。他にございますか。

委員：障がいのある方の学びの支援があるのですが、障がい者の方々にできる体験ではなく、障がい者の方々が集まってできる体験があればよいかなと思いました。各施設で何ができるのかということはありませんが、行政や施設から何かあればよいかなと思いました。

議長：行政でもう少し検討していただきたいということですがいかがでしょうか。

事務局：全体の話になりますと、把握していないものもございますが、生涯学習課では、身体障がい者文化教室ですとか、ボランティア団体と協働で行っている障がい者のパソコン教室など、障がい者の方々が集まって学べる場としての事業を行っているところです。計画にも載っているということで、これから、周知をして、さらに色々なところで進めていけるように努めてまいりたいと思います。

委員：障がい者パソコン教室というのはどの程度の年齢の方が対象ですか。大人ですよ。

事務局：そうですね。成人の方で、実際に参加いただいている方の年齢は40から60代が多いです。コースは肢体不自由・視覚不自由の2つがありまして、その方々が参加されています。この計画は教育委員会だけで進められる内容ではありませんので、障がい者が集まって何かできるきっかけづくりなどができたらよいのではないかと。市長部局の障がいの担当とも話をしまして、実際にそういう機会ができないかと進めてまいりたいと思います。

委員：わからないので教えていただきたいのですが、図書館の外国語によるお話し会というのは、外国語は何語で、聞くのはどなたが対象になるのですか。

事務局：29年度に開催しましたお話し会では、講師が学校のALT、外国人の方で、英語のお話会になります。対象は幼児から小学生までで、先に日本語の本を読みまして、その後に英語バージョンの本を読むことで、英語がわからない方でもある程度内容がわかるような形で行いました。

委員：対象は日本の子ども達になりますか。市内の外国人かと思いました。

(2) 苫小牧市科学センターのあり方について  
資料に基づき、科学センターから説明

《質疑の主な内容》

議長：ただいまの説明について、質問・ご意見ございますか。

委員：新しい館ができてからではなく、即実行に移すことができればと思います。こういう方向性で進めていただきたいと思います。

委員：老朽化とされていますが、建替えも含めて考えているのでしょうか。

事務局：科学センターの機能としては、教育委員会として必要なものだと考えておりますし、おっしゃられたように老朽化が進んでおりまして、いつ、どこにとすることは決めておりませんが、改築という方向で考えています。

委員：科学センターは、文化会館や、教育委員会の施設の中で一番古いのでしょうか。

事務局：科学センターが一番古いと思います。文化会館は新市民ホールに統合されるという方向性となっております。当初、科学センターも新市民ホールに統合するという話があったのですが、そこに統合してしまうとスペース的に限られてしまうため、統合しない方向に変えています。新市民ホールに科学センターは入らないということは決定しています。

委員：出光カルチャーパークに集約することも考えているということを書かれているのですが。

事務局：先ほどお話ししたとおり、場所については決定しておりません。博物館などがあるカルチャーパークにとすることも考えられますし、現在と同じところにとすることも考えられます。1つの考え方として、出光カルチャーパークに科学センターを集約することも選択肢として考えましょうということで記載しております。

委員：5年生を対象とした科学の時間を科学センターで設けられているということですが、年何回、何時間くらいでしょうか。

事務局：クラスごと、学校単位で来ていただいておりますが、各1回です。1時限目ミールなどを学習していただいて、2時限目に宇宙空間の真空などを学ぶと

いうことを行っております。

委員：星の学びや雲の動きというのは、学校で教えることが難しい。それぞれの学年でその時の学ぶことに対応したものがあると、教員としてもありがたいですし、子供としても学びたいと思ったところで学べるので科学が好きな子が増えるのではないかと思います。今しか見られない流星群に併せて天体観測があれば、見てみたいという気持ちになるかなと思います。それから、センターに入ったときに暗いと思った。暗いところもブラックライトなど、暗いのを生かしてもらえたらと思います。新千歳から直行バスがあれば、苫小牧に住んでみたいと思ってもらえるような科学体験ができてよいなと思います。

事務局：以前は青少年センターということで、自然関係も担当していましたが、博物館と分かれたときに、科学センターでは、科学、物理、天体を持って、博物館では、生物、地学、自然科学といったものということで分かれてしまっています。他の学年については、詳しく存じておりませんが、学校の方で、4年生で博物館へ行って、5年生で科学センターに来ることとしているようです。バスについては、直行はございませんが、千歳空港から苫小牧までのバスはありますから、実際にそれでミールを見に来る方はいらっしゃいます。団体のツアーなどで来られる方に、学校でミールを見に来ているという話しをしますと、いいなおっしゃられる方はいらっしゃいます。観光でただ見るだけではなく、職員との話を通じながら、委員のおっしゃるようなこともPRしていきたいと思います。

議長：他の団体と連携を取りながら進めていただきたいと思います。苫小牧のアピールにもなりますし。

委員：今後のあり方について、社会教育委員会で承認となっておりますが、承認する場でしょうか。

議長：承認する場ではなく、ご意見を申し上げる場となっております。

委員：総合教育委員会も承認で、その後に委員会報告となっているのはどのようなことでしょうか。

事務局：社会教育施設ということになりますので、皆様方にご意見をいただくのが今日の会議で、承認事項ではございません。市長が招集する総合教育会議も承認事項ではなく、そこでご意見をもらった後に、最終案を作ります。その最終案ができたなら、議会へ報告することになりますので、議会でご意見を伺うというのが最終になります。

委員：議会で新しい建物を建てようということになれば、建てるという話になっていくということでしょうか。

事務局：市教委としては、建替えなければならないという考えを持っていて、議会でもそう答弁をしております。将来的には改築というところは間違いないところだと思います。いつどこにということでは決まっておきませんので、このあり方を元に、基本構想、基本計画でもっと具体的な科学センター像というものが出てくる。今現段階では、教育委員会では将来こんな科学センターがあったら良いというのを、まとめたところになります。

委員：科学センターにはないですが、図書館では図書館協議会がありますが、どういう役割をしているのですか。

事務局：館長の諮問機関で、議題があれば協議会を開催してご意見を伺うもので、図書館は独自に諮問機関をもっております。科学センターには諮問機関はなく、社会教育委員会がそれに代わる諮問機関であるという位置づけとなっております。

委員：仮に建てるのが構想に出てきたということになれば、専門的な分野が入ってくると思うのですよね。社会教育委員会では難しいのかなと思います。それと、わからないですけども指定管理者になると、諮問機関的なところが必要になるのではないかと。諮問機関の位置づけやメンバーについて、他のところを参考にさせていただきたいなと思います。

事務局：これから、具体的に科学センターの協議会などもどうしていくかということ協賛していかなければならないと思います。いずれにしても、あり方について色々な方にご議論いただいて、それを元に最終的な案を作っていくところだと思います。

委員：施設というのは利用者の意識と深く係わってくると思うのですが、書かれていますように、有益に活用できる手段、方策を講じる必要があるというのは誠にそうだと思うし、全ての人が利用できる居場所作り、また来たいと思われる施設を作ること、それと共に内容の充実が大事ではないかと思うので、このように進めていただければよいかなと思います。

委員：新しい建物が建ったからできるではなくて、その前から、準備というものもあるけれど、人がどういにかかわりをして、科学館でどうい市民を育てていくかが大事なので、例えば、今からやってもいいと思うのですよ。

委員：科学センターで物品販売をしてはいけないとかはあるのですか。家でできる科学セットがあれば買いに行くのと思うのですよ。家庭と科学をつなぐ窓口であってほしい

事務局：現金の取扱とかはありますし、直接の販売は難しいです。業者の教材としてはありますし、直接販売ではないですが、相談にのることは可能です。

委員：インターネットで教材を買うこともあると思うのですが、ちょっとしたヒントみたいなものがあれば、教材を生かされると思います。そのヒントがなかなか見当たらない。科学センターに聞いて指導してもらおうということも可能なので、そういうのをうまく市民として使った方がいいと思うのですよね。

### (3) その他

次回の会議は委員改選について説明。

## 4 閉会